



新見市男女共同参画情報紙

りぼん

vol.25
2018.2



男性の育児参加は 理解と協力の結晶 ～輝く時を共に過ごす～

今回の『りぼん』は、“男性の育休（育児休業・休暇）”にスポットを当て、24年前に育休を取得した三上さんと、現在、育休取得中の森中さんのお二人に、生活の様子や育児に対する考えを伺いました。



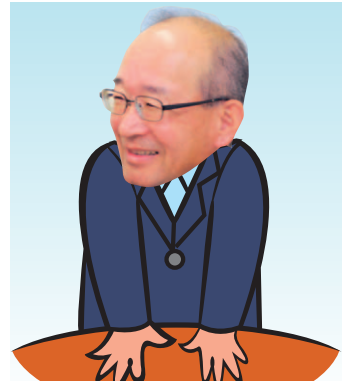
森中 智也さん 新見市役所に勤務

平成29年4月から1年間の育休を取得。
1歳児と5歳児の子育てと家事をこなしているらしい…。



三上 裕弘さん 草間台小学校に勤務

24年前に岡山県内の男性教諭として初めて育休を取得。当時の様子について振り返っていただきました。



三上さん

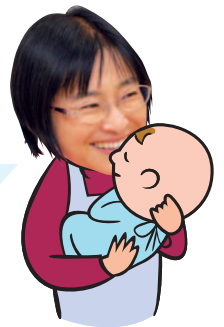
育休を取ったきっかけは？

今から約24年前、結婚して何年か経ったところに男性教職員も育休が取れるようになったんです。それを勉強してきた妻に、「もしも子どもができたら育休とるんじゃない？」と言われたのがきっかけです。私の方から積極的に取ってみたいと思ったことはありませんでした。正直言ったら男なのに育休取るのは恥ずかしいとか、親や職場の人がどう思うかとか、そういう考えの方が先にたちましたね。

でも、実際に妻が妊娠した時には、意外に応援してくれる人が多かったんですよ。



にーみん



双道委員

三上先生がおっしゃったように、周りの方の理解も大きいと思うんです。女性の先生方も、保護者の方の理解があったおかげで、育休を取れたと言われていました。



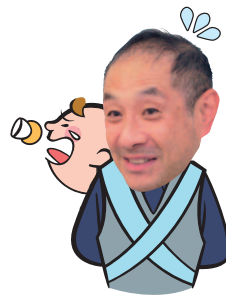
岡本副委員長

育休中の生活はどんな感じでしたか？

育休を妻と私で半分に分けて、後半の5カ月を取りました。当時、育児の勉強をするために本を買ってみたら、ちょうど離乳食の開始時期だったんです。離乳食を作るのは面白かったですよ。食べさせるのも面白くて、育児自体はとっても楽しいし良かったです。

期間中は、育児・家事を全部やってみようと決意していました。

た。1日は、朝ごはんを作ることから始まります。それから冷凍していた母乳を解凍してミルクと併用してあげて、それから離乳食を作って食べさせていました。同じ部屋にいつも父と子が一緒にいる感じでした。洗濯、料理、アイロン、そして苦手ですが掃除もしました。



川本委員長

育児ストレスでお酒を飲んじゃうことはなかったんですか？

よく言われる育児ノイローゼになる感じは分かりました。どうやっても泣き止まない時とか。「あー、こっぴつ感じで育児ストレスとかになるんじゃないかな」というのが分かりましたね。

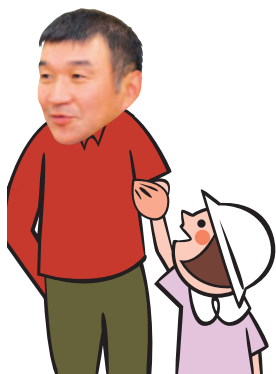
当時と今を比べて良くなったことはありますか？

当時は、外出先のトイレには子どもを寝かせる場所もないし、当然、おむつを替えるところもない。外食する時だった

をしたままでした。とにかく大変でした。

今は、世の中変わりましたね。育児がしやすいようにトイレや授乳室などの設備面が格段に良くなっていますね。より子育てしやすい環境に改善されていると同時に、男の人が子どもをだっこしている、全く違和感がなくなりましたように思います。

学校では、昔は男子は技術を、女子は家庭科の授業と決まっていたんですが、現在では、算数や国語の授業と同じように、男子も女子も一緒に技術や家庭科を習うようになっていきます。より男女共同参画的な教育スタイルになりましたね。



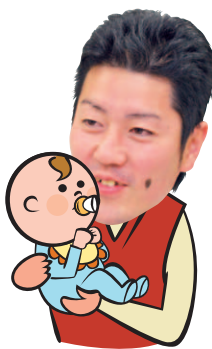
前田委員

育休の取得を他の人に勧められますか？

幼い時期の子育てができる経験なんて一生の中でもそうないわけですから。

世間の意識は、私が取った時

よりも変わっているし、イクメンってという言葉があるくらい男性が育児をしています。ただ実際には、自分の代わりに仕事をしてくれる人がいるのかが心配で、なかなか育休を取れないというのが問題ですよ。



森本委員

経済面のこと及び腰になる原因がもしもありませんか？

私の時には、育休中は全く給料がでなかったですね。妻が取っても同じでした。ただ、生活費は必要なわけですから、大変なのがわかりました。
 今では、職業によって違いますが、最初の1年はいくらか給料が出る職場もあります。これは大きいと思いますね。

育休を取ったことで良かったことはありましたか？

育児だけじゃなくて、家事も含めてやったから、全部自分でできるようになりました。それ

は今でも役に立っていますね。ご飯を作って妻の帰りを待ったり、アイロンがけが得意になったりとか。

あと仕事については謙虚になったと思います。教員になって9年目ぐらいだったので、それなりに「このクラスには自分が必要だ」というようなおごった気持ちがあったと思うんですよ。ところが、代わりの人が来たら「ああ、自分の代わりはいっぱいいるんだ」と気付かされ、ちよつとさみしい感じもしました。でも、ワーク・ライフ・バランスとかを考えると、こういう方がいいんですよ。

育休中の経済的な不安を軽くするために、金銭的な支援も充実すればいいですね。その上で、職場から自分がいなくなる間、誰かがそれをカバーしてくれれば、さらに良いかもしれません。そういう仕組みや、協力し合う意識が大切だと思います。



小川委員

これから子どもを持ちたい人に対して一言お願いします

自分の子どもが育つていく中で、かけがえのない時間を共に過ごせるチャンスはなかなかありません。子どもはあつと言つ間に成長し、自分も歳をとつてしまします。戻ろうと思つても戻れない。だからこそ、若いころは子どもとの時間を大切に過ごしてほしいのです。

私は自分の人生を振り返つた時に、そこが輝いているんです。キラキラしてる。今でも、子どもがハイハイしているところが映像として記憶に残っています。



森中さん

育休を取ったきっかけは？

市では男女共同参画の担当をしていたこともあって、男性の育休についての話をいろいろと

聞いていました。

今子どもが2人いて、上の子は5歳で、下の子が1歳になって、妻が1年間の育休から復帰するタイミングだったので、仕事柄、子育ても男女が協力するべきと考えていたことから育休を取る決心をしました。この仕事を経験していなかったら、育休を取ろうとは思わなかったかもしれません。

それから、やっぱり子どもが日に日に成長していくのをリアルタイムで見たいという気持ちがありました。



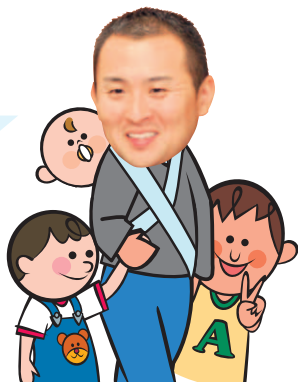
逸見委員

育休中の生活はどんな感じですか？

普段から家事はできる方がやるのと妻と話していますが、今年は僕自身でほとんどやると決めたので、90%ぐらいはやっているつもりです。

1日の流れは、朝起きて朝ご

はんを作って、上の子をこども園に連れて行きます。帰ってきたら、掃除や洗濯、買い物をして、昼過ぎに上の子を迎えに行つて、一緒に遊ばせます。それから晩ごはんを作ったり風呂に入れたり。時々子どもがお母さんがいいと言つことがあるので、その時は妻にしてもらいます。子育てについて、妻や自分の親からいろいろ聞いて、何とかがんばっています。しかられしかられ…です(笑)。



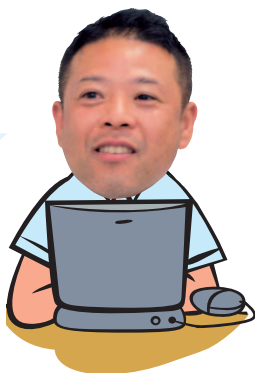
石田委員

私も10日間ですが育休を取ったんです。僕の場合は、下の子がまだ3カ月だったんで、見るのが難しかったですね。だから上の5歳と3歳のお兄ちゃんを見てるっていう感じでした。だから森中さんの話を聞いてすごいなあと思いました。

育児ストレスなどは
だいじょうぶですか？

育休は下の子のために取ったんですが、やっぱり生活の流れは上の子中心になってしまってますね。僕の場合も下の子を一生懸命見るっていうより、下の子を連れて上の子を見るような生活です。だから、石田さんのお気持ちはずごく分かります。ストレスはやっぱりありますね。そういう時は自分の時間を作るようにしています。

妻も子育ての大変さはとてもよく分かってくれているので、相談して丸1日子育てを休ませてもらって、自分のやりたいことをしてストレスを解消するようになっています。



谷岡委員

フレックスタイムで仕事ができればいいですね。例えば、朝9時に出勤して夕方4時に終わるとか、1日6時間

勤務とか、収入は少し減るかもしれませんが、仕事も育児も両立できるように時間を調整して働くことができるようになってほしいですね。



フレックスタイム制はいいですね。近くに頼れる人がいない

場合は、特に助かると思います。よく仕事と育児とどっちがいいかと聞かれるんですけど、どっちの方がいいというのはないです。結局、育休が終わっても育児から手が離れるわけではないので、仕事と両立しなくてはいけません。家庭内で話をして、バランスをとって育児ができれば、必ずしも男性が育休をとらないといけないという事はないと思つています。ただ、女性が、夫が育児に参加しないのでいつまでたっても職場復帰ができませんとか、一方に負担がかたよるとか、そういう環境にならないように意識して、協力し合えばよいのではないのでしょうか。それぞれの家庭の事情に合わせて、うまくやっていけば良いと思います。

編集後記

編集委員長 川本 太間

今回の「りぼん」では育休を男性として取得された方からお話を聞いて紙面にすることができ、大変感謝しています。育休を取得して子育てに関わった時間は、かけがえのないものであることは言うまでもありません。ご苦労もあるでしょうが今後とも子どものため、ひいては社会の先達としてご尽力願いたいと思います。

幼少期に自分は、少しでも大人に近づきたい、背伸びをしたいと思ひ立ち、わがままを聞いてもらったことがありました。

当時、幼稚園ではバス通学が流行っており、無理を言つて一人で乗ったことがあります。通園仲間がいたことや、数分間だけなので、親も心配はなかったように運賃の小銭を持たせてくれました。これで僕も大人の仲間入りができたぞ、と優越感に浸りましたが、バス通園は一週間もすると飽きてしまい、また徒歩で通園するようになってしまいました。

今でも時折バスを利用することがありますが、当時を思い出し、なぜか未だに優越感に浸っている自分があります。まだまだ子どもかな…。